

V 植物群落を基礎にした景観区分

Einsatz der Pflanzensoziologie bei der Landschaftsforschung (die Sigmasoziologie)

景観を構成する要素には生物的、非生物的な認識できるあらゆる対象物が含まれている。その中でも生物的な構成要素の中心となる植物群落は、その立地の環境を総合的に反映し、土壌、地形、気候、人間の影響などの具体的な指標となることが多い。したがって植物群落を基本単位として区分された景観は、立地評価とさらに人間活動の評価を総合反映している。植物群落どうしの組成的なまとまりは総和群集として定義されている。

1. 総和群集の調査法 Methode der Sigmasoziologie

総和群集の調査区は立地条件の一定している潜在自然植生域内で判定される。潜在自然植生域の中心から出現する植物群落を記録し、調査面積を広げていく。面積の拡大とともに群落の出現数は減少し、調査区の最小面積に到達する。さらに調査面積を拡大し、群落の出現数が再び増加する地点が他の総和群集域との接点となり、最大面積を示している。総和群集の調査区はこの最小面積と最大面積のあいだで設定される。

つぎに調査区内に出現するすべての植生単位のリストがつくられる。各植生単位には総合的の被度が7段階、群度が4段階で表示が行なわれる。

被 度

- 5：被度が調査面積の75%以上を占める。
- 4：被度が調査面積の50～75%を占める。
- 3：被度が調査面積の25～50%を占める。
- 2：被度が調査面積の5～25%を占める。
- 1：線状、小さな斑点状、あるいは点状で植分が散在している。被度は調査面積の5%未満。
- ＋：点状、群落の植分数は多いが、全体として面積が非常に少ない。
- r：まれ、偶生

群 度

- ：大きな斑点、あるいはカーペット状に分布している。
- ：帯状に分布している。
- ：：小群をなして分布している。
- ・：単独に分布している。

その他、潜在自然植生および植生以外の景観構成要素、人間による干渉の程度、さらに海拔、地形、土壌など現地で判定しえる環境条件についても記録される。

現地で得られた総和群集調査資料は室内作業により以下の手順で表が作成され、標徴群落の発見につとめられ、総和群集表が作成される。

総和群集表作成作業過程

1. 原調査資料の“素表；Rohtabelle”への記入
2. 常在度の高いものから低いものへ縦に並べ換え、また出現群落数の少ないものから多いものへ横の並べ換え、“常在度表；Stetigkeitstabelle”の作成
3. “部分表；Teiltabelle”による区分群集、区分群落：Sintaxa の発見
4. “総合常在度表；Übersichtstabelle”による標徴群落；Kenn-Gesellschaft の発見
5. “総和群集表 Sigmassoziationstabelle”への組み換え。

2. 調 査 結 果 Ergebnisse

海老名市域の沖積低地と洪積台地上を対象に行われた総和群集植生調査により、5 総和群集がまとめられている (Tab. 21)。

1) 沖 積 低 地 Alluviales Tiefland

(1) タチヤナギ総和群集

Saliceto subfragilis-Sigmatum

(優占する植物群落)

ヨシ群落、オギ群落。

(標徴および区分群落)

タチヤナギ群落、スズメノテッポウタガラシ群落、ウキヤガラマコモ群落、ヌマガヤツリ群落。オランダガラシ植分、マルバヤハズソウカワラノギク群落。

(指標的な人工景観要素)

なし。

(潜在自然植生)

コゴメヤナギ群落、タチヤナギ群落、マルバヤハズソウカワラノギク群落、ヨシ群落、ツルヨシ群落、スズメノテッポウタガラシ群落。

(立地)

増水時に冠水し、洪水によって富養な運搬土のもちこまれる河川敷。

(土地利用)

グラウンド。

(景観保全)

洪水にみまわれやすい地域のため、土地利用はグラウンドに使用される程度である。堆積物、冠水の頻度に応じてさまざまな植物群落が成立しているが、流水の水質浄化、水辺景観形成に重要

な役を果たしている。また、タチヤナギ総和群集域は広く草原のみられるところであり、野鳥の生息地となっている。四季を通じて、つり、散歩、水遊びなど市民の憩いの場となっている。したがって無理な土地利用は行わず、風致地区として自然植生を保護していくのが適当である。

(2) ウリカワーコナギ総和群集

Sagittario-Monochoriecto-Sigmetum

(優占する植物群落)

春季はノミノフスマーケキツネノボタン群集，夏季はウリカワーコナギ群集。

(標徴および区分群落)

ウリカワーコナギ群集，セリークサヨシ群集，ウキクサーアオウキクサ群落，アゼガヤツリーカワラスガナ群集，ミゾカクシーオオジシバリ群集，ミゾソバ群集，ジュズダマ群落。

(指標的な人工景観要素)

水田。

(潜在自然植生)

オニスゲーハンノキ群集，ムクノキーエノキ群集。

(立地)

沖積低地の湿潤地。

(土地利用)

水田。

(景観保全)

今日，残されている森林植生および低木林植生はなく，100%に近い土地利用がなされている。その多くは水田であるが，最近では埋立てにより工場誘致，宅地造成が行なわれている。

ウリカワーコナギ総和群集は日本の平野部の典型的な田園景観を示し，米の収穫量がもっとも高く，また，自然災害に対して貯水池的な役割も果たしてきた。景観保全には画一的に全域で宅地化をすすめないこと，農業を活生化させることである。

(3) イノデータブノキ総和群集

Polysticho-Perseeto thunbergii-Sigmetum

(優占する植物群落)

カラスビシャクーニシキソウ群集。

(標徴および区分群落)

イノデータブノキ群集，クマワラビーイヌシデ群落。

(指標的な人工景観要素)

モチノキ生垣，クスノキ植栽樹，イヌマキ生垣，サンゴジュ生垣，ケヤキ植栽樹，ネズミモチ

生垣，タブノキ植栽樹，マダケ林，カキノキ果樹園。古い家屋にはタブノキとケヤキの屋敷林が良くみられる。

（潜在自然植生）

イノデータブノキ群集。

（立地）

適潤な水分条件をもつ沖積低地上の平坦地。一部洪積台地上でも，小河川によって開析された斜面下部の適潤地が相当する。

（土地利用）

耕作地，宅地。温暖な気候のもと，平坦地でしかも水の便が良く，古くから農耕地として開けた。また，集落も良く発達し，歴史的に古い家屋の多いのが，イノデータブノキ総和群集域の特徴である。耕作作物も豊富でダイコン，キャベツ，ハウレンソウ，ネギなどがとくに多く栽培されている。

（景観保全）

海老名市ではクヌギーコナラ総和群集域とならんで多様な土地利用がみられる。とくに集落は水の便にまさるイノデータブノキ総和群集域に良く発達している。今日では工場誘致，宅地造成も盛んに行なわれるようになり，緑が多く，古い落ちついた集落の景観もそこなわれ始めている。本郷の下谷津，今里の三島神社付近，河原口の有鹿神社から宗珪寺に続く付近の景観はとくに保全を必要としている。

2) 洪積台地 Diluviale Hochebene

（4）クヌギーコナラ総和群集

Querceto acutissimo-serratae-Sigmatum

（優占する植物群落）

カラスビシャクーニシキソウ群集，ホトケノザーコハコベ群落，クヌギーコナラ群集。

（標徴および区分群落）

カゼクサーオオバコ群集，アズマネザサ植分，シラカシ群集，クヌギーコナラ群集。

（指標的な人工景観要素）

苗圃，クワ畑，シラカシ高垣，シラカシ生垣，シラカシ植栽樹，チャノキ生垣，スギ・ヒノキ植林。モチノキ植栽樹，チャノキ植栽樹。

（潜在自然植生）

シラカシ群集。

（立地）

火山灰土に厚くおおわれた洪積台地上。水分状態はやや乾燥から適潤下におかれている。

（土地利用）



Fig. 34 郷土種で構成されている農家の屋敷林（真鯨）。

Ein Hofwald aus mehreren einheimischen immergrünen Arten (Makujira).

耕作畑，宅地，薪炭林，スギ・ヒノキ植林。薪炭林は利用価値の低下から宅地への転用が多く，大規模造成による新興住宅地が増えている。耕作畑ではイノデータブノキ総和群集域に比較して葉菜，根菜が少なく，クリ，クワ，チャノキ，苗圃など木本植物が目立っている。

（景観保全）

クヌギーコナラ総和群集は雑木林（クヌギーコナラ群集）によって特徴づけられる関東地方固有の田園景観である。畑地と雑木林と竹林とシラカシ・ケヤキの屋敷林のそろった地区は上今泉



Fig. 35 市の北部にみられた桑畑（上今泉）。

Man sieht oft *Morus*-Gärten im Nordteil der Stadt (Kamiimaizumi).

配水池付近，上今泉三丁目段丘肩部，清水寺公園，坊原の段丘肩部など面積的にも狭くみられるにすぎなくなっている。古くからある景観の破壊は大規模造成によるものが多く，境界環境保全林の形成による積極的な景観修正がのぞまれる。また比較的大きな森林や樹木はすでに海老名市の保全や保護の処置を受けているが，さらに古い農家の家屋，生垣，畑地なども含めて一定地区を対象とした景観的保全が必要である。

（５） ギンゴケーツメクサ総和群集

Bryo-Sagineto japonicae-Sigmatum

（優占する植物群落）

なし。

（標徴群落）

ギンゴケーツメクサ群集。

（指標的な人工景観要素）

カイヅカイブキ生垣，キャラボク生垣，ヒイラギナンテン植栽樹，コノテガシワ生垣，キョウチクトウ生垣，ニオイシュロラン植栽樹，オウゴンヒバ生垣，イチイ植栽樹，サツキ植栽樹，ヒマラヤシダ植栽樹，アジサイ植栽樹，ジンチョウゲ植栽樹，ネズコ植栽樹，イチヨウ並木。

（潜在自然植生）



Fig. 36 新興住宅地の造成により、クヌギ、コナラの雑木林がどんどん少なくなっている（上今泉）。

Immer mehr neue Siedlungen entstcken; Niederwälder des *Quercetum acutissimo-serratae* gehen stark zuruck (Kamiimaizumi).

シラカン群集。

（立地）

洪積台地上のなだらかな丘陵斜面。

（土地利用）

新興住宅地。

（景観保全）

海老名市では大規模造成によりクヌギ・コナラ総和群集からギンゴケツメクサ総和群集に変化した区域が多い。とくにクヌギ・コナラの雑木林域の造成が目立ち、森林植生が著しく減少している。ギンゴケツメクサ総和群集域の特徴は、建造物がこみあっていることと、庭木に外国産の常緑針葉樹が多く使われることである。常緑針葉樹の植栽には流行もあるが、落葉がしにくく庭の手入れが簡単にすむためと考えられる。古い農家が、在来種の常緑広葉樹と非常時の食料になる果樹を植栽しているのと対照的である。

ギンゴケツメクサ総和群集に代表される新興住宅は今日、独立した景観を構成するにいたり、昔からの田園景観と調和しない状態にある。両域の景観を保全するためには境界環境保全林による景観修正が必要となる。



Fig. 37 市街地域のとくに新興住宅地では、外国産の針葉樹を使った庭づくりが主流となる（国分寺台）。

Man sieht oft ausländische Nadelhölzer in den Gärten der neuen Siedlungen (Kokubunjidai).